



沼津の中学校で東部方面音楽隊が生演奏



中学生との合同リハーサル



全校生徒に合同演奏を披露

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月31日（火）、沼津市立第三中学校において実施された「陸上自衛隊東部方面音楽隊（朝霞駐屯地）演奏会」に協力した。

この演奏会は、同校の鈴木美枝校長から音楽隊によるプロの演奏技術と本物の楽器が奏でる音楽を生徒に体感させたいという強い要望と、音楽隊の演奏会を通じて自衛隊という職業を知ってもらい、自衛隊の活動への関心を高めてもらう目的で実施された。

午前中は同校吹奏楽部との合同リハーサルと各楽器の演奏指導が行われ、高校受験を控え引退していた3年生の元部員たちも参加し、プロの技術指導を受けた。生徒たちは「プロの演奏を聞くことはあっても、直接指導を受けて同じ楽器で合同演奏をしたのは初めて。貴重な体験ができた」と感想を語っていた。

午後からは、全校生徒約600人が体育館に集まり演奏会が開かれた。まず音楽隊がシロフォンやトロンボーンなど各楽器の特徴を捉えたソロ演奏で観客を魅了し、吹奏楽未経験者や中学生でもわかりやすいように一つ一つの楽器の紹介を行った。後半は若者に人気の高いハロウィン・ディズニードレィ等で会場を盛り上げるとともに、最後に吹奏楽部との合同演奏を披露した。

学校の教諭からは「ぜひまたこのような機会をつくり、技術指導や演奏会を開いてもらい生徒の成長に結び付けたい」との声があり、演奏会の成果を実感した様子であった。

静岡地本は、今後も学校や専門学校などのイベントを支援し、連携を深めるとともに自衛隊への理解促進や志望者の増加を図っていく。

静岡県遺族会「陽だまり会」が追悼式に参加



参列者による献花



殉職隊員の冥福を祈る弔銃

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月1日（土）、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）で行われた「静岡県自衛隊殉職隊員追悼式」における静岡県自衛隊遺族会への支援を実施した。

当日は雲ひとつない清々しい青空のもと、同駐屯地司令・山之内竜二二等陸佐を執行者として、隊員遺族13人及び来賓の参列を得て厳粛かつしめやかに執り行われた。

式は隊員による儀仗や来賓の追悼の辞、参列者による献花と進み、式が進行するにつれ遺族はありし日の大切な家族との思い出に思いを馳せている様子であった。

殉職隊員の冥福を祈る弔銃で式は終了し、その後行われた会食では、きれいに雪化粧をした富士山を仰ぎ見る会場において遺族を代表し遺族会長・平松玲子氏が、式典への感謝と災害派遣等で昼夜終わることのない任務を黙々と遂行する隊員を労う謝辞を述べた。

また、追悼式後には神奈川県箱根町のホテルに場所を移し「静岡県自衛隊遺族会総会」を開催した。会員から「同会に愛称を付けたい」との提案があり、議論を交えた結果「陽だまり会」と親しみやすい新たな愛称が採用された。

同会が会員にとっていつまでも日が差し込み続ける暖かい場所であるように、静岡地本も今まで以上に遺族に寄り添った暖かな支援を続けていく。

「タミヤフェア」で自衛隊をPR



3台の自衛隊車両が大迫力



広報官の説明に聞き入る
募集対象者と家族

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月8日（土）と9日（日）、ツインメッセ静岡（静岡市）で開催された「タミヤフェア2017」において、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊と駒門駐屯地（同市）第1戦車大隊と協力して広報活動を実施した。

これは、「模型の世界首都・静岡」を代表する模型メーカー・株式会社タミヤが主催し、今年で19回目を迎えた大規模イベントであり、今年は2日間で2万4千人もの多くの来場者が県内外から訪れた。

広い館内にミニ四駆の走行コーナーや各種のRCカーコーナーなどが並び、自衛隊が展示した高機動車、軽装甲機動車、96式装甲車といった模型にもなっている自衛隊車両は一際目を引き、多くの来場者が本物の迫力やスケールを体感していた。

また、制服や迷彩服、防弾チョッキの試着体験や車両に乗っての写真撮影も行い、多くの家族連れや若者が楽しんでいった。

若者や保護者を対象とした自衛官採用制度説明コーナーでは、自衛隊に興味・関心のある多くの若者や保護者に対してこの職業の魅力ややりがい、募集制度について説明を行った。中には「水泳が得意なので、それを活かせる職種があるのか知りたい」といった質問もあり、広報官が海上自衛隊の潜水士について詳しく説明するとともに、水泳能力を活かして近代五種や水泳などでオリンピックを目指す道もあるなど、自衛隊の中でも選択肢は多岐にわたることを説明し職業について理解を深めてもらった。

静岡地本は、今後もこのような地域のイベントに積極的に参加し、自衛隊への興味や関心を高め、熱意のある若い志願者獲得に邁進していく。